



# こくろうよなご

第14号

2026年3月10日

発行責任者 倉下文明

編集 教宣部

つくろう職場に労働運動を！ ひろげよう闘いを 職場に、地域に、全国に！



## 賃上げの前提は生産性向上？

### 26春闘勝利・米子地方本部総行動

3月3日、地方本部事務所を起点に各分会の組合事務所をリモートでつなぎ、22名の組合員の参加による「26春闘勝利、米子地方本部総決起集会」を開催してきました。総決起集会は吾郷書記長の開会あいさつで始まり、倉下委員長のあいさつに続き、26春闘の交渉経過などについて報告がありました。

#### 待遇改善道半ば！

倉下委員長からは、○営業収益は、万博・インバウンド効果もあり史上最高益を上げています。インフレで経費が嵩む中でも営業利益は過去3番目、堅調な経営状況にある○25春闘では、12200円で会社史上最高の賃上げであるとしているが、物価高を加味すると精々現状維持でしかない。物価高を上回る実質賃金の引き上げを目指し交渉を強化する

続いて藤江副委員長より、山陰支社内の効率化施策に対する交渉の様子など報告がありました。

#### ○再雇用者・契約社員

など雇用形態の違いによる「格差是正」も重要な課題である。取り分け、業績に連動していないとする精励・精勤手当についてモチベーションの維持が難しい状況にある○コロナ前は、地上職の待遇改善を図るための賃金制度の見直しを検討されていたが、一昨年の見直し5340円では十分とは言えない。賃金制度の在り方など含めて早急な検討が必要である○国鉄世代が退職しJR採用者が中堅を担うが係職などポストも少なく賃金も頭打ちとなる。多様な働き方含めて係職にならなくても賃金が高くなる仕組み作りも重要な課題ではないかなど、春闘交渉の内容について話がされました。

#### 効率化が目白押し

3月のダイヤ改正・駅の統括駅と業務執行体制の見直し・保線管理室体制の見直し・車両関係の研修体制の見直しなど、年明けから交渉が目白押しとなっている。業務範囲が拡大することでの安全・サービスの低下の懸念や駅における作業ダイヤフリーの導入など生産性を向上させるための施策の実施状況などが話されました。

#### 高い付加価値とは？

総決起集会後は、各事務所にて討論集会や地方本部作成のチラシ配布が取り組まれ、米子地区を中心に午後からの中央総決起集会に参加してきました。

米子地区では、共闘の仲間にも参加いただき「26春闘討論集会」が行われました。春闘情勢の学習では、元鳥取県高教組委員長の中さんから講演を受けました。中さんからは、26春闘情勢として



#### 定額働かせ放題！

「経営者団体である経営連でさえも『力強い賃上げを定着させ、実質賃金が安定的にプラスで推移する社会を目指す』とする一方で『賃上げの原資を安定的に確保するには、労働生産性の向上によって企業収益を改善させることが欠かせない』とも言っている」「そこで経団連が言っているのは『効率化を図る働き方改革の深化』としてAI（人工知能）の活用やDXで生産性を上げ、高い付加価値を作り出す」「健康確保を前提に、より柔軟で自律的に働くことが出来る裁量労働制の拡充も引き続き求められている」と言われています。

現在、高市政権が進めようとしている「裁量労働制の適用範囲の拡大」は、こうした経営者側の意向に沿うものだという事です。

では、「裁量労働制」とはどのような働き方なのか。実際の労働時間ではなく、あらかじめ決めた『みなし労働時間』で働いたものとみなす制度。例えば、みなし8時間とすると実際の労働時間は6時間でも10時間でも賃金は8時間分しか支払われな（深夜勤務の手当・休日労働の割増賃金は支払対象）。つまり『定額働かせ放題』であり、導入済みの学校職場では、長時間労働が大きな問題になっている」と言われている。

また、現在、専門業務（研究職・記者・税理士など）と企画業務（本社中核での企画・立案・調査など）に限定している対象職種をさらに拡大しているというものです。多くの労働者が労働時間無制限の働き方を強いられることとなります。

26春闘では政労使が賃上げを求めていると言われますが、向いている方向は全く違うという事です。中さんの講演の後は、共闘の皆さんから報告を頂くなど充実した討論集会となりました。

#### 地域の仲間と26春闘を闘おう！！

去る2月27日、米子駅前だんだん広場において、「こだわろう！くらしの向上！ひろげよう！仲間の輪」をスローガンに連合西部主催の「26春闘勝利総決起集会」が開催され、一般参加者枠にて国労鳥取県分会が参加してきました。

集会では、主催者を代表して連合西部の遠藤会長より「ここ数年、賃上げはあるが物価高が上回り、実質賃金は低下している。物価高を上回る賃上げが続くという社会的ノルム（社会的規範）を確立していくうえで、

重要な意味を持つ春闘だ。連合鳥取に結集する仲間が一丸となって26春闘を闘い抜こう」と挨拶があり、来賓からの激励に続き、参加労組を代表して日産自動車労組が決意表明を行い、その後、集会アピールを採択、遠藤会長の「団結頑張ろう！」にて集会を終えてきました。

集会後は、米子駅前通りから医大方面に向けてデモ行進、小雨の振る生憎の天気の中でしたが、「物価高を上回る賃上げを」「26春闘を勝利するぞ」など氣勢を上げてきました。